

## 中間提案に寄せられた意見等

### < Aグループ >

#### 1 (30代 男性)

Aグループの方に少し興味を持ったんで、ご意見を出させてもらいます。

ボランティアがはやらない理由は、提案にあるようなもののほか、ボランティアを行った人にメリットが少ないということがあるんじゃないでしょうか。

せいぜい「自己満足」くらいで、社会的評価が高まる訳でもなく、むしろ、何かたくらんでいるのはと逆評価になるような気がします。

したがって、貴重な時間を割いて、ボランティアをする人があまりいないのではないのでしょうか。

そこで、ボランティアを行った人にメリットを与えることが必要ではないかと考えます。具体的には、

県又は市町村が特定のボランティア団体を認定する。(公募、要件は緩く。)

(県及び市町村は、上記のボランティア団体の広報を積極的に行うとともに、ボランティアの募集のアシストをする。)

認定ボランティア団体に係るボランティアに参加した者も登録制とし、参加の都度ポイントを与え、一定のポイントがたまったら、認定証を交付する。さらにたまれば、知事表彰(何か副賞があっても良いかもしれませんが。)というようなことを思いつきました。

ん～、ぱっとしませんね。

でも、ボランティアをする人を社会的に評価してあげる仕組みが必要だと思います。そうすることで、ボランティアに対するイメージも向上し、参加もしやすくなるのではないかと思います。

#### 2 (40代 男性)

直に各地の小規模の地区に対してのボランティアの会員名簿を作る事。大きく県単位のボランティアでなく、中部地区とか、倉吉市地区とか、三朝地区とか、小規模地区の小単位での会員名簿を作ると、会員はそれぞれに己の自覚、責任も強まるし、またボランティア同士の和(輪)も広がると思います。

### 3 (20代 男性)

県内各地域で、地域に根ざした特色あるボランティア活動がなされておりますが、まだまだその活動が知られていない実態は確かにあると思われまます。ボランティア活動に参加したいという潜在意識を持った県民へまず受け入れのできるボランティア活動を紹介する、あるいは、具体的な活動内容を提示する立体三面ポップでの情報提供は魅力があると思います。しかし、日本で普及されようとしているボランティア活動の概念が費用弁償無きタダのボランティアであるという点がボランティア精神が日本に定着しない原因である以上、爆発的に普及するということにつながるという要因を含んでいると思います。

ボランティア活動をする上では事実上、活動場所への移動にかかる交通費や1日がかかりであるならば昼食代などがかかります。結論ポケットマネーが必要となります。そして、自分自身の活動に係るエネルギー・時間を消費します。これを踏まえ、ボランティア活動に長期間にわたり携わろうと思えば、ある程度お金に余裕があり、時間的に余裕がある人しか関われない現実があります。これは、ある社会教育研究者の講演から学んだことです。

精神の普及と共に費用弁償制度の定着も必要ではないかと思ひます。

しかしながら、提案は素晴らしいものであり、従来の鳥取県にない発想ではないかなと思ひます。鳥取市内で斬新デザインのボランティア活動に関する広報誌等を目にするのを楽しみにしてひます。がんばってください。

### 4 (20代 女性)

TVや新聞の効果はやっぱり大きいのですが、10~20代はバイトや友達と遊ぶことで夜が遅かったり生活が不規則で見逃してしまう人が多いと思ひます。日時や連絡先を伝えるにはPOPは良いアイデアだと思ひます。「とりなび」などのフリーペーパーにボランティア募集記事を載せたり、ポスターやチラシを若者がよく来る雑貨屋、服屋、カフェなどに置くといいと思ひます。カフェにおけば、ゆっくりしに来るのだからポスターをじっくりみる人も多ひだろうし、「ボランティア」ということが身近でとっつきやすいものを感じるのではないかと思ひます。

## < Bグループ >

### 1 (40代 男性)

(1) 田舎という言葉に、かなりの地域で抵抗感があり(田舎という言葉がイヤで、そのを出て行く人もあるし、劣等感をあおる場合にもある。特に長老とそこに住んでいる若者が問題)、これを全面に出すことはいかかなことかと思う。

これを克服する上手な説明がないと、入り口論で大きな障害(議論)となるのでは。

( 提言グループはもっと地域の実態を勉強してください)。

これを乗り越える方法として、地域全体で自信と誇りが持てるような試み(例;ワークショップやイベントなど)をすることにより、以外に早くうち解ける時もある。

(2) IUターンを進めることは良いことであるが、ターゲットが特に50才以上の中高年という年齢構成に問題がある。10年たてば福祉・医療サービスなどのかなりの面で、市町村への負担も増えてくる(お金持ちの人が来るなら良いが)。これらの検討が前提となり、受け入れる市町村にとって最重要課題。( 提言グループはもっと多面的に勉強してください)。

出来れば、働き盛りの若者がIUターンできる魅力ある雇用(お金が少なくても夢が実現できるとか、やりがいがあるとか、地域で個性のある職業など)、若者にとって住みやすい環境づくり(例;住居、教育、生活の安全性等)の具体策に検討する必要があるのでは。

### 2 (40代 男性)

(1) IUターンの人に鳥取県内で各出身先の県人会を作って、更なる親睦を深めて頂ける様にする。又県はこの県人会を主催となって実施するとIUターンの人もふるさと(もとのふるさと)の人同士で賑やかになる。

(2) IUターンの人に(Uターン)に、優遇をして何でも安価で、又は低金利で、又各種何でも便宜を図ってあげる。そしてその内容を広くPRしてあげる事が大切と思います。

### 3 (20代 男性)

情報技術の進展により、今やインターネット等を通じ日本のみならず全世界の様々な情報を個人個人が知り得る社会となっています。鳥取においても例外なく同様です。これは、私の意見ですが、鳥取県が遅れているという感覚は全くありませんし、田舎と呼ばれることに対する抵抗感もありません。メディアによって新鮮な情報をもたらされ、それによって若者達も都会の流行に乗り遅れてもない。そして、食べ物・生活環境においては申し分ない土地であると感じます。ただ、若者が魅力を感じない面があるとすれば、それは、娯楽といった部分で不満を感じているのではないのでしょうか？現に、県内にあるショッピングモールなどは、休日になれば多くの若者でにぎわっております。都会は遊び場の宝庫ではありますが、都会は居住するには適していないように思います。

過疎化が進んでいるのは奥部であり、利便性や快適性（特に交通の面）が整っていないからこそ人口の減少が起こるのだと考えます。田舎は田舎のままに...的な発想では過疎化にますます拍車がかかる一方ではないかと思えます。必要とされる整備はされて当然だと思えます。

県民でも一歩外から鳥取県を眺めてみると必ず都会にはない魅力を感じ脳裏にふるさとの田園風景を思い浮かべていると思えます。県民に対してのスローな田舎暮らしという提案はあまりピンと来ないような気がします。

しかし、イターンリターン希望者に対する受け入れ促進に関しては、どんどんやるべきだと共感します。確かにゴミゴミした都会に住み続けるよりよっぽど鳥取県のような自然豊かな地域で老後をとすることを考える方は多いのではと思います。現実の者にするためにどれだけ条件整備がどこまでできるか（生活を安定させるための就労環境や住環境、地域情報の提供）だと思います。

また、第2の人生を歩まれる方を受け入れるということは、中高年が住むに適した社会環境（保険制度や福祉サービス）が整備されることも必要であると思えます。

自分一人では何もできませんが、好き勝手に評価してすいませんでした。県が活気づくことを期待します。

### 4 (20代 女性)

新しい娯楽施設ができたりするのは個人的には大変嬉しいけれど、人口の多い大都市などには色々な面でかなわないと思うので、鳥取から発信できると思うことを書きます。

スキムボード...サーフィンなどに較べると知名度も低くてやっている人もあまり見かけませんが、鳥取はスキムボードの「聖地」なのだそうです。県のあちこちの海岸線がスキムボードに絶好で、こういう県はめずらしいようです。

波うち際であそぶので、泳げない人も始めるのに抵抗が少なくできると思えます。ボードとワックスがあればできるし、海の家なんかで貸し出すのはどうでしょうか？地元の人に意外と知名度が低いような気がします。

サンドボード...大砂丘のある鳥取ならではの遊び方だと思うので、ぜひもっと地元で一般的になって欲しいと思えます。

鳥取の人より、県外から来ている鳥取大学の学生は「鳥取あそび生活」がうまいと思えます。私も鳥大出身ですが、県外の人に「鳥取あそび」を教えてもらいました。公営のログハウス（あぞう等）を借りて飲み会をしたりもしていました。

## 5 (20代 女性)

私は実際に田舎暮らしをしている者です。東京都小金井市から、パチンコ屋や派手な看板のない佐治村に移住し二年、現在梨農家として歩み始めたばかりです。

個人的な意見ですが、もしもここが大型ショッピングセンターで溢れたどこにでもあるような中途半端な田舎だったら私は決して住む事はなかったと思います。大げさかもしれませんが、佐治だから鳥取に来たといえるかもしれません。

強く思うのは、鳥取には<どこにでもあるような中途半端なところ>になっていただきたくないです。

鳥取のすばらしいところ、それは手を伸ばせば上質な自然を満喫できることです。なにより水がおいしく、空気がよく、夜空がきれいで子供を育てるのにこの上ない環境。

県民一人一人が上質な自然との楽しみ方を知っている、鳥取のよさをアピールできる そんな鳥取だったらすばらしいと思います。

そのような教育、<鳥取人を育てる教育>って素敵だと思います。学校の授業で陶芸や傘踊りを学んだり・・・

また、もっともっと山村留学を積極的に行うことが必要だと思います。

こちらでの生活の中でただ残念なことがいくつかあります。

例えば、図書館があまりに充実していなかったり、文化や芸術に触れる機会が少ないことです。

スポーツなどは力を入れているようなのですが。

鳥取に出ても映画館の小ささや、美術館の少なさ、質のいいものに触れる場所が少ないと感じます。

とにかく昔からの伝統や風習、文化、建造物を頑なに守るべきです。農村にある古民家は都会の人の憧れです。壊してはいけません。すべてが財産になります。

鳥取にしかないオンリーワンのものを守るといふ県民の強い意識が必要でないでしょうか？